

私^{わたし}たちは、 土砂災害^{どしゃさいがい}（どしゃさいがい）の 多^{おほ}い国^{くに}に住^すんでいます。

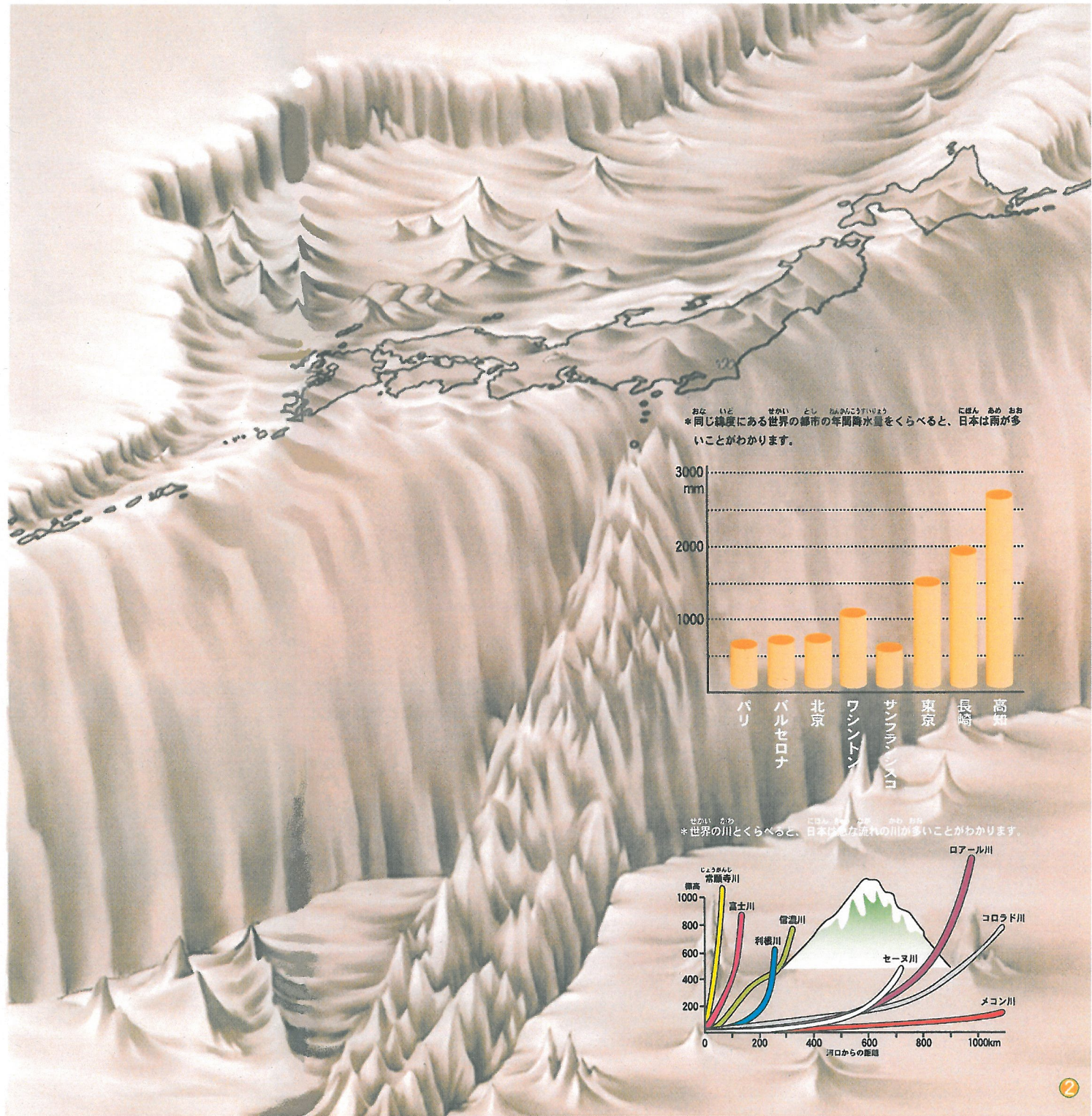
もし、海の水をぜんぶぬいて、海の底から日本列島を見上げたとしたら、日本列島があるところはヒマラヤ山脈^{ひまらやさんみゃく}くらいの高さになります。つまり、私たちはごつごつした山脈の上のほうでくらしていることになるのです。日本の国土の70%が山地であることや、他の国に比べると短くて流れの急な川が多い理由も、私たちは高い山でっぺんに住んでいるのだからというふう

に考えていけば、わかりやすくなります。日本は、世界の平均の2.5倍もの雨や雪が降ります。とくに梅雨や台風などの時には、一度にたくさんの雨が降ります。日本の山地の多くは、川の水や、雨、風にけずられやすい弱い岩石や土でできているために、弱い部分が崩れて土石流（どせきりゅう）、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害（どしゃさいがい）が起きてしまうのです。

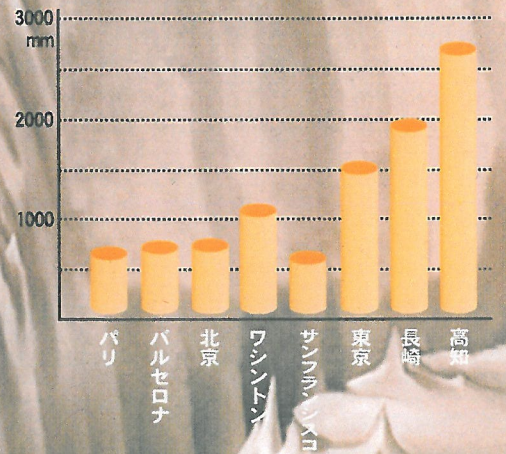
また、日本には世界の活火山の10%にあたる86もの活火山があります。平成3年に起きた雲仙・普賢岳災害をはじめとして、噴火によって発生する火砕流（かさいりゅう）などの災害が、多くの火山で起きています。

それに加えて、日本は地震の多い国なので地震による土砂災害（どしゃさいがい）なども少なくありません。大正12年に起きた関東大震災や、平成7年の阪神淡路大震災をはじめとして、崩壊や土砂災害（どしゃさいがい）などにより数多くの犠牲者が出るような大地震が昔から何度も起きています。

日本は、このような地形・地質・気象条件をもつ国なので、土砂災害（どしゃさいがい）やその他の自然災害が起きやすいのです。



おなじ緯度にある世界の都市の年間降水量をくらべると、日本は雨が多いことがわかります。



世界の川とくらべると、日本は急な流れの川が多いことがわかります。

